

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1473200986
法人名	医療法人社団 平平會
事業所名	グループホーム パティオつくいけ
訪問調査日	平成21年2月4日
評価確定日	平成21年3月28日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	第1473200986号
法人名	医療法人社団 平平會
事業所名	グループホーム パティオつくいけ
所在地	241-0031 横浜市旭区今宿西町358 (電話) 045-959-3117

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成21年2月4日	評価確定日	平成21年3月28日

【情報提供票より】(平成21年 1月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・ 平 16 年 8 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 7 人, 非常勤 8 人, 常勤換算 5.3 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造準耐火 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	85,000 円	その他の経費(月額)	35,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 450,000 円	有りの場合 償却の有無	有 /無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,575 円			

(4) 利用者の概要(1 月 10 日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名		
要介護3	6 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	名		
年齢	平均 77.9 歳	最低	61 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 恵生会 上白根病院、つくいけ内科クリニック
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは医療法人平平會の経営であり、「有料老人ホームはなみずき」を中心に、いくつかのグループホームを展開している。隣接の「つくいけ内科クリニック」からは、週に一度の訪問診療がある。「はなみずき」のナースとは24時間のオンコールの契約がなされており、医療面は充実している。ターミナルケアに対しては、医師・看護師の連携により入居者の状態に応じて、対応出来る体制は整っている。この建物の特徴としては、中庭(パティオ)を中心として回廊があり、それに沿って居室が配置されており、光と花々が溢れている。リビングの反対側には籐の椅子とテーブルのセットがおかれ、サロンのような雰囲気を醸し出しており、面会に来られた家族との語らいの場にも使われている。2階の居室には2部屋ごとに共通のベランダがあり、避難袋が設置されていて非常時の対応がなされ、あらゆる「万が一」に万全を期している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>① 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>設立以降ご近所との交流に努めてきたが、特にこの一年は密着を深めてきた。毎年11月にホームで近所の音楽ボランティアの方の演奏(ピアノ・マリンバ・サクソ)があり、当日は芋煮会も計画してご近所の方に声をかけているが、今回は総勢60人程が参加、入居者とご近所の方の楽しい行事となっている。また、利用者の方の様々なご要望に応える様、昨年よりも今年とより内容の濃い対応を心掛け、日帰り温泉やバイキングの夕食などを実現してきた。</p>
	<p>② 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価・外部評価の必要性については、職員に伝え理解を得ている。前年度はスタッフ全員に自己評価票を配布したが、今年度は前年度を基準にしてホーム長・ユニットリーダーが話し合い、自己評価に取り組んだ。評価に対しては、謙虚に受け止め今後の改善につなげていきたいと考えている。</p>
重点項目	<p>③ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2~3ヶ月に1回開催している。出席者は、家族・ご利用者が各2名、今宿西町内会長、地域のマンションの鶴ヶ峰ガーデン自治会長、上白根地域包括支援センターの職員、旭区からは随時高齢者担当の出席がある。内容としては、入居者の状況・ホームの活動状況・職員の異動などとなっている。また、会議の中で出た話から、近隣の神社への道のバリアフリー化や、道路のデコボコの補修、地震の際のアドバイスなど、ホームに添った情報を頂ける場所にもなっている。</p>
重点項目	<p>④ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ご家族のいる方の訪問はかなり多く、コミュニケーションは取れている。立ち上げ当初から各居室にノートを置き、ご家族からスタッフへ、スタッフからご家族へ、状況報告や要望等のやり取りがされており、貴重な記録となっている。重要な意見、苦情については、介護計画や日常のケアの場面で取り入れるよう、努めている。</p>
重点項目	<p>⑤ 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>オーナーが地主であり、7月の流しゾーメンの行事の時には手作りの竹を用意してくれるなど、良い関係性が築けている。野菜や手作りの靴下などの差し入れや、散歩途中に犬や赤ちゃんを見せに寄ってくれる方、行事の時には気軽に手伝いをして下さる方など、ご近所のお付き合いも順調である。自治会の行事が盛んな地域であり、秋祭り・どんど焼きなどに声を掛けてくれる。ボランティアも、傾聴・将棋・トランプ・社協からの三味線など多岐に渡っている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム開所時にスタッフで考えた理念をそのまま掲げているが、思いは「地域の皆様と共にある暮らし」と考えている。		この関係を継続する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関・事務所に理念を掲示している。職員の入れ代わりがあり、十分反映できていない面もある。	○	職員会議や申し送りを利用して、徹底を図って行きたいと思っている。
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には当初から加入している。自治会や地区の行事には、積極的に参加しており、またホーム主催の行事にも多くの近隣の方の参加がある。		継続して実施していく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価の必要性については、全職員に伝えている。評価については、謙虚に受け止め、改善に向け、努力している。		継続して実施していく。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2～3ヶ月に1回開催している。家族や地域の方々の意見を頂き、ホームの運営に生かしている。また、ホーム側の要望も実行していただく等、有意義な場となっている。		継続して実施していく。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村が行う講義などには、出来る限り参加している。区の高齢者担当の職員や、生活保護担当の職員とは、常に連絡を取り合っている。		継続して実施していく。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族の訪問は多く、入居者の近況や状態は口頭で伝えている。また、状況に応じて金銭報告・精算も行っている。		継続して実施していく。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に、苦情相談窓口となる職員と公的機関を表示している。ご家族の来訪時に話をし、意見や要望は職員間で周知徹底させるよう努めている。		継続して実施していく。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には、異動はしない方針で、施設の運営は行われている。やむを得ず、離職や異動があった場合は、心理的なショックを極力与えないよう配慮している。		継続して実施していく。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人より、レベルに応じた研修を受けられる。研修参加後は、報告を行う機会を設けている。また、資格取得支援制度を設け、認知症介護実践者研修を順次受講してもらっている。		継続して実施していく。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会による交換研修制度を利用して、学ぶ機会を持っている。また、近隣のグループホームとお互いの行事に参加しあうなどの交流もしている。		継続して実施していく。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前にご家族と見学をして頂いて入居して頂く等、本人が不安なままで入居されることのないよう、配慮している。		継続して実施していく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常の散歩・お手伝い、また行事の際のお手伝いなど、共に生活しているという関係を大切にしている。		継続して実施していく。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いや意向を大事にし、望む人には外食や買い物等を楽しんで頂けるよう、対応している。		継続して実施していく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、本人と家族、職員の意見を参考に作成している。		継続して実施していく。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のケアカンファレンスで職員の意見を聞き、家族とも話し合いながら、三ヶ月に一度の見直しを行っている。必要に応じて、現状に沿った見直しも行っている。		継続して実施していく。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	近くに法人の有料老人ホームである「はなみずき」があり、柔軟な支援が出来る体制にある。		継続して実施していく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接する「つくいけクリニック」の医師の往診が週に一回、「はなみずき」から看護師の巡回が月に2回ある。医師・看護師の指示や家族の意向で必要とされた場合は、協力病院等で受診している。		継続して実施していく。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医師・看護師の連携により、対応する準備は出来ている。書類上の説明は、済んでいる。		継続して実施していく。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	自尊心を傷付けることの無い様、言動に気をつけている。個人情報の取り扱いについては、守秘義務の徹底を図っている。		継続して実施していく。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを尊重して、出来るだけ自由に過ごせるよう、職員が協力しあいながら、ケアをしている。		継続して実施していく。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の方の出来る範囲で、お手伝いをして頂き、食事が楽しいものになるよう、支援している。		継続して実施していく。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週に3回だが、お好きな方は毎日入ったり、畑仕事で汚れた場合等、個々の事情で臨機応変に対応している。		継続して実施していく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お茶の心得のある方や、生け花の先生をされていた方等、各自の得意分野を大切に活躍の場面を提供するよう心掛けている。		継続して実施していく。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの神社や公園など、出来るだけ毎日散歩に出ることを日課にしている。室内が回廊式になっているので、出られない場合でも気分転換と運動不足の解消にはなっている。		継続して実施していく。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物の構造上、鍵のかかる自動ドアになっているが、今後、状況に応じて手動に切り替える等、臨機応変に対応していく意向である。		継続して実施していく。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回以上、防災管理者の指導により防災訓練を実施しており、避難経路や緊急連絡網を事業所内に掲示している。9月の防災の日の自治会の消防訓練にも元気な人が参加している。		継続して実施していく。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝と昼はカロリー計算された宅配サービス、夕食は法人の「はなみずき」の配食を利用している。摂取量については、食事・水分共に観察・記録している。状態に応じて、粥やキザミ食対応もしている。		継続して実施していく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の集うリビングは花に溢れ、親しみやすい音楽が流れ、快適性を配慮した空間になっている。回廊の中ほどに籐の椅子セットが置かれ、家族や利用者の方が居心地良く過ごせる工夫がしてある。		継続して実施していく。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居説明の際、入居者の方の使い慣れた物を持参して頂くようお願いしており、その人らしさの感じられる空間になっている。		継続して実施していく。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的に客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームパティオつくいけ
(ユニット名)	だいち
所在地 (県・市町村名)	横浜市旭区今宿西町358番地
記入者名 (管理者)	安村 典子
記入日	平成 21年 1月 10日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↓ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム開所時に考えていた理念をそのまま掲げていますが、思いは常に「地域の皆様と共にある暮らし」と考えています。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関、事務所には理念を掲示していますが、職員の入れ替わりもあり、サービスの提供時において十分反映できていない面もあると思います。	○	職員会議や申し送り時を利用して、理念の確認と徹底を図っていききたいと思います。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	自治会に加入しており、行事や地域活動への参加、また行政からの委託事業により、地域と家族の方々にホームの趣旨と内容の説明、及びホームでの日常場面をビデオで紹介する等して、認知症に関する理解を深める機会を設けています。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の方々には、開所時よりとても好意的に接して頂き、手作り品や新鮮な野菜を届けて下さるなど様々な形でお世話になっております。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、会合や地区の行事にも積極的に参加しています。また、ホーム主催の行事には、多くの近隣の方々が参加して下さっています。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	近所の方による演奏会を近隣の方がとても楽しみにしており、ホームで開催する芋煮会に合わせて行って頂いています。毎年大勢の方が参加して下さり、芋煮会の際には近隣の方にもお手伝いをして頂き、演奏会と合わせて皆様に大変喜んで頂いています。		
---	--	---	--	--

3. 理念を実践するための制度の理解と活用

7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価の必要性については、職員に伝えています。改善に向けて努力している項目もありますが、全体的に生かしきれていない部分もあると思います。	○	評価を謙虚に受け止め、今後の改善に努めていきたいと思えます。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員の方々に会議に参加して頂き、報告必要事項の説明を行っています。その際、委員からの助言もホームの運営に活かしています。また、近隣の散歩道の不具合を指摘すると、早々と修復して下さる等、ホーム側からの要望も実行して頂いています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村が行う講義には、出来る限り参加しています。また、生活保護担当者とも常に連絡を取り合い情報提供に努めています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	GH連絡会で行う研修に参加しました。実際、制度適用の必要性がある方には、区の担当者と協力して利用した方もいます。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人としてのマニュアルを設置しました。研修を受けた職員の資料を参考にして、常日頃、不審な事や言動についての情報収集に努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	---------------------------------	------	----------------------------------

4. 理念を実践するための体制

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書、契約書等を通じて説明を行い、同意を得ています。解約時にも詳しく手順を伝え、協力できる部分については納得して頂けるまで行うようにしております。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居契約時に内部、外部の苦情相談窓口の説明を行っており、事務所には専用の用紙を備えています。苦情があった場合には、速やかに対処するように努め、対応・経過を記録に残しています。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族の来訪時に入居者の近況や状態説明を口頭にて伝えていきます。状況に応じて小口金の報告、精算も行っています。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に窓口となる職員や公的機関を表示しています。ご家族の来訪時には確認するようにしていますが、意見や要望等が出された際には職員間で周知徹底するように努めています。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に三回、法人に対して自己評価表の中で運営者や上司に対して直接意見を記載できる項目を設けています。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員の必要人数が確保できるように努めていますが、体調不良等の緊急時には勤務変更や時間外で補充しあう等、協力を要請して調整に努めています。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には、異動はしない方針で施設の運営が行われています。やむを得ない事情での異動や離職に関しては、心理的にショックを与えないよう配慮しています。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み			

19	<p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>随時、法人より各レベルに応じて研修を受講できるように案内があります。また、資格取得支援制度を設けてます。認知症介護実践者研修を順次受講してもらっています。</p>	○	<p>法人としては、研修を勧めています。シフト制という事もあり、あまり受講出来ていないのが現状です。今後は、各自計画性を持って自己研鑽に努めて欲しいと思います。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>GH連絡会による交換研修制度を利用して学ぶ機会を持っています。また、近隣のグループホームとお互いの行事に参加し合うなど交流を重ねて友好関係を築いています。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>親睦会やボーリング大会等を実施しています。また、月二回実施する会議においても問題点を取り上げ改善に努めています。</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>実力能力主義を掲げ、昇給、賞与に反映させています。</p>		

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>最初の面談の際からご本人やご家族の思い、不安な点などを把握しながら、グループホームとしての全般的な説明を行い、信頼関係を築いていけるよう努めています。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>最初の面談の時から、自分が家族だったらとの思いで不安な点、要望等を傾聴し、説明を重ねていく事で安心して頂けるよう努めています。</p>		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>最初の入居相談においては、入居を前提とした対応ではなく、グループホームでの支援が適しているか、また他入居者との関係において共同生活が可能かどうか等、ご本人にとっての状況を考慮した上で決定しています。</p>		

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が不安なままで、入居される事のないよう他入居者へも事前に理解を求め、状況に応じてご家族の協力も要請する等のあらゆる場面で配慮しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の大先輩であるという事を頭に置いて、常に尊敬する姿勢を忘れないようにしたいと思っています。個々の得意分野や能力を活かして、日常生活のお手伝いをして頂けるよう、支援しています。	○	さらに個々の能力を伸ばせる支援の必要性を感じています。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の状態をご家族に報告し、常に相談や意見を求める事で、ご本人にとって最良のケアを提供できるようにと考えています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居後も、ご本人とご家族との関係が良好に保てる様に、訪問時、また外出時にも楽しい時間を過ごして頂ける様支援しています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族は勿論、友人との関係を継続出来る様、希望時には電話や手紙での連絡も支援しています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	その時々、状況の把握に努め、共同生活を営む上で個性を尊重しながら助け合いの気持ちを持って頂ける様に支援しています。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他施設へ移る等で退所された方はいませんが、病気で入院された際などは、家族がいない方も多いため、関係者と相談しながら継続的に関わりを持っています。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	訴えが困難な方が多い為、一人一人の意向の把握に努めています。共同生活であるがゆえにホームの都合に合わせて頂く事もあるのが現実です。	○	今後は、出来る限り本人の意向に沿えるよう、努力していきたいです。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前からのアセスメントで生活歴や趣味、生活環境等伺ってサービス提供に役立てています。入居後もご本人との会話の中から新たな発見があり、得意分野として活かしています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	午前中に、入居者全員のバイタルチェックを実施し、その際に気になる状況があった場合には看護師に報告し、指示を仰いでいます。特に変わりがなければ、散歩や入浴など通常通りのケアを実施しています。		

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人とご家族、職員の意見を参考に計画作成担当者が中心となって介護計画を作成しています。介護計画はご本人とご家族にも確認して頂いています。	○	意思伝達の訴えが困難な方に対しても、その方の意向を反映した介護計画を作成していきたいと思っています。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のケアカンファレンスにより職員の意見を聴きながら、ほぼ三ヶ月に一度の見直しを実施しています。状況に応じて必要な場合には、現状に沿った見直しを行っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤、夜勤共に担当者が介護計画の実践し、その日の状態の変化や言動等を詳細に個別で記録しています。申し送りが必要な特記事項は、介護日誌に記録し、朝と夕方時に看護師に報告すると共に職員全員が把握するよう努めています。		

3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所に多機能性を有している訳ではないので、ご家族との密接な接触を持って頂ける様に支援しています。		
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ご本人の得意分野である将棋のボランティアの方を依頼したり、その他必要に応じて、歌や踊りのボランティアの方をお願いしています。今後ご希望があれば随時、意向に沿える様努めていきたいと思ひます。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	今まで特に他のサービスを利用したケースはありません。	○	今後、本人の希望や必要性に応じて検討したいと思ひます。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	ご家族と相談しながらホームで行っているため、今のところ地域包括支援センターとの協働は行っていないのが現状です。	○	希望や必要性が生じた時には積極的に支援してまいります。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に一度医師の往診、月に二度看護師の巡回を受けています。医師、看護師の指示や、家族の意向により、受診を必要とする場合には、協力病院などで受診しています。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	当法人の理事長、併設のクリニックの医師共に内科医であり、週一度の診察以外にいつでも相談できる利点があります。状況に応じて、認知症に関する専門的な受診が必要な場合には、専門医への受診も行っています。		
	○看護職との協働			

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療の連携により、月二回の看護師の往診があります。日々の業務日誌による報告を行い、緊急時には24時間体制で連絡が取れるようになっており、常にご入居者、職員が気軽に相談できる関係です。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した入居者に関する連絡事項がある時には、病院側と連絡を取り合っています。入退院に備え、ホーム側も病院側も看護サマリーを用意し、情報交換を行っています。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアに対して、医師、看護師の連携により入居者の状態に応じて対応する準備はできています。書類、整備は完了済みです。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	入居者の重度化に対して「出来る事、出来ない事」の変化を見極め、状態に応じて医師や看護師と密に連絡を取り、介護、医療の両面からサポートしていこうと思っています。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	今の所、住み替えにより退所された入居者はいませんが、今後希望される入居者には、スムーズに実施出来る様支援したいと思います。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底	一人ひとりの状態や個性を踏まえて、自尊心を傷つけること		

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	のないよう言動に気をつけています。法人としても「ちゃん」付けの呼称を禁止しています。個人情報の取り扱いについて、守秘義務の徹底を図り、書類破棄の際にはシュレッダーを活用しています。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	普段からコミュニケーションを取る事で傾聴、受容、共感を基本として対応する事を心掛けています。ご入居者の思いを把握して自己決定を促すようにしています。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	訴えが困難な入居者が多い為、一日の流れはホームのスケジュールに沿った形で過ごされる事が多いですが、常に個々のペースを尊重して行動を束縛する事はなく、自由に過ごして頂いています。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	2ヶ月に一度のペースで、訪問理容を利用しています。パーマや毛染めを希望される入居者は美容院を利用して頂いています。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者が重度化される中、なかなか食事の準備や片付けを一緒に行う事が難しくなっている現状ですが、それでも座ったままで作業できる事をお願いして参加を促しています。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	なるべく家庭と同じ雰囲気でご過ごして頂くという趣旨で、出来る限り本人の望む事を支援しています。(飲酒・喫煙)しかし、身体的理由のある方の飲酒や喫煙に関しては、健康上の理由から医師や看護師と十分相談しながら制限をしています。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	失禁時には、自尊心や羞恥心への配慮は勿論、排泄に関する不安が解消されるよう、排泄表を参考にしながら個々の状態の間隔を見極めて、不快な思いをしないよう支援しています。		
	○入浴を楽しむことができる支援	基本は一日置きの入浴としていますが、季節や個々の状態に合わせて臨機応変に対応しています。特に暖い日や時間		

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	に合わせ臨機応変に対応しています。特に曜日や時間を定めず、心地良い入浴をして頂けるよう心掛けています。ただ、入浴を拒否されたり、高齢で体への負担が大きい場合には回数を減らしたり、また失禁があった場合には入浴して頂く等の対応をしています。	○	ほとんどのご入居者が歩行不安定で入浴時も介助が必要であるため、リスクを考慮し、スタッフの多い日中の時間帯に入浴して頂いています。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間、浅眠が続くご入居者には睡眠チェックシート等でパターンを把握し生活リズムを観察しつつ、日中の運動を促すことで安眠できるよう支援しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お茶の心得のある方には抹茶を立てて頂いたり、生け花の先生をされていた方には花を生けて頂く等、各自の得意分野を大切に活躍の場を提供する事で感謝の気持ちを伝えています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者ご自身での金銭管理は困難な状況であり、ホームで代行しています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は日常の中で日課としていますが、入居者の方々の脚力の低下や拒否により、少しずつ回数が減ってきている現実があります。車椅子を使用して近くの公園まで出掛けて季節を感じ、少しでも気分転換になればと思っています、		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族と外出する事を支援していくのは当然ですが、ご家族がいない方や体調面に対応できない方も多いため、希望時には個別の対応も行っています。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が希望される時には、電話でご家族やご友人と話をさせて頂くようにしています。また、ご自分で携帯電話を持っている入居者の方もいます。普段の生活の中で手紙を書かれる事を希望される方はほとんどいませんが、字が書けるご入居者には家族に宛てて年賀状を書いて頂く等をしています。		
	○家族や馴染みの人の訪問支援	ご家族がいない方もあり、両方に支障がある方もあります。		

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族がいつでも気軽に訪問して頂くため、特に面会時間を定めていません。一緒に幸せな時間を過ごして頂きたいと願っています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事務所に身体拘束に関するマニュアルを置いています。常に身体拘束ゼロを目指し、職員に指導しています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物の構造上、鍵が掛かる自動ドアになっています。ご入居者の状況により危険を伴う場合も多いため、玄関は常時施錠されています。	○	帰宅願望のあるご入居者はなく、施錠されていることによる行動制限や圧迫感等の弊害はないように思いますが、今後も状況に応じて手動に切り替えたりする等、臨機応変に対応していきたいと思えます。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	多動な方の行動を制限する事無く、他の方とのトラブルを防ぐために、つねに全員の所在や様子を把握しながら対応しています。夜間時には、2時間ごとの巡回も行っています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	衛生管理マニュアルを基本としますが、ご入居者が色々な物を居室に持ち帰る事があるため、基本的に危険な物については手の届く範囲に置かず、職員が管理するようにしています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事務所に各種マニュアルを用意しています。その都度、ヒヤリハット報告書や事故報告書に記録を残し、再発防止のため職員同士の連携を図っています。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	看護師が作成した各種症状に応じたマニュアルを用意し、緊急時に備えています。救急対応の流れや連絡先なども事務所に掲示しています。	○	定期的に医師や看護師の指導を受けたり、職員全員が救急救命講習を受講するように勧めたいと思えます。
	○災害対策	防火管理者の指導により、年に二回以上防災訓練を実施しています。		

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	くいます。避難経路やその方法、緊急連絡網を事務所内に掲示しています。法人としての、防災マニュアルも作成しました。日頃から近所の方に協力して頂けるよう要請しており、運営推進会議でも確認を行うなどをしてはいますが、実際の災害時の事を考えると不安なところもあります。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	リスクに対しては、常にご家族に説明を行い理解を求めています。職員間でも会議などで対策を検討をしています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックや状態の変化を観察し、特変が見られた際には、申し送りや記録に残す事で職員間で情報を共有しています。また、医師や看護師に報告し指示を仰ぎ、その都度対応しています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご入居者が服用している薬の説明書をファイルにまとめ、いつでも確認できるようにしています。状態変化が見られた際には、週一回行われる医師の往診の際に報告するようにしています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防の為に、日々飲水や適度な運動を促し、乳製品や食物繊維を多く含んでいる物を摂取して頂くように心がけています。毎日の排便チェックを行い、便秘の際には看護師に報告し、指示を仰ぎ対応しています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	声掛けにて促し、行って頂けるよう支援しています。ご自分で出来ない方に関しては職員が介助し、口腔内の清潔の保持に努めています。また、定期的に訪問歯科を利用し、必要に応じて治療を行うようにしています。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算された食材の宅配サービスを利用しています。摂取量については食事、水分共に観察、記録しています。個人の嗜好に応じて他の物を用意する事もあり、状態に応じて粥やキザミ対応としています。		
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	それぞれの感染症に関するマニュアルを用意しています。状況に応じて予防のプリントの閲覧の他、日頃からうがい、手洗いの励行、そして、冬場の乾燥時期には風邪予防のため、加湿対策にも留意しています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	キッチンや調理用具等の取扱いに関しては衛生管理マニュアルに沿って、常に清潔を保持するように努めています。食材に関しては常時、賞味期限に注意を払っていますが、さらに1週間に1度実施している冷蔵庫内の掃除の際にも必ずチェックを行うようにしています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に至るまでの私道の植え込みや、玄関前のプランターには四季折々の花を植えて親しみやすさを演出しています。クリニックとホームの看板や、植込みの照明については暗かった公道が明るくなり、犯罪防止にも役立つと近隣の方々に喜ばれています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常時、入居者が集うリビングでは快適性に配慮し、BGMに季節を感じられる、親しみやすい曲を流しており、一緒に口ずさめる程度の音量にしています。日差しはレースのカーテンで調整しています。運営推進会議で指摘、助言された災害時における食器棚と冷蔵庫の転倒防止のための突っ張り棒も設置しました。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自然とリビングのソファーに入居者が集い、談笑されています。個別に利用できる談話スペースもあり、こちらもさまざまな機会に利用されています。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居説明の際に、使い慣れたものを持参して頂くように家族にお願いしていますので、その人らしさが感じられる居室となっています。		
	○換気・空調の配慮			

84	<p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>トイレはもちろん、各空間の換気は常に行っています。エアコン、床暖房によるマメな室温管理、冬季には特に加湿対策も行っています。</p>		
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>回廊式の廊下やトイレ等には手すりの設置、水周りの滑りやすい場所にはマットの使用、浴室の安全性と共に、すべてにおいてバリアフリーとなっており、安全で自立した生活が送れるように工夫されています。</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>入居者の各居室やトイレには分かりやすいように大きな文字で表示しています。目印に手作りのネームプレートを掛ける等して工夫もしています。</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>建物の構造上、ベランダには段差があり、危険であるため、使用していませんが、四季を通じて中庭を広く活用しています。気候の良い時期にはお茶や食事を、夏には流しそうめんを行う等して入居者に喜ばれています。日当たりの良い玄関前にもベンチを設置しており、日向ぼっこや散歩帰りの休息の場として活用しています。</p>		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当ホームでは、グループホームの目標である地域交流に力を入れています。近隣の方々、また入居者のご家族のご支援によって、地域に密着した形でのホームの運営を行わせて頂いております。日頃から、近隣の方々には温かいお言葉を掛けて頂いたり、家で飼われている犬を連れて遊びに来て頂いたり、地域の方が気軽に訪問して頂ける理想的なホームになってきました。毎年恒例の、近所の方による演奏会と合わせて行う芋煮会には、近所の方が声を掛け合って、大勢の方が参加して下さい、一緒に行事を盛り上げてくれています。近隣のグループホームとも、お互いに助け合い、お互いの行事に参加し合う等、親交を深めながら友好的な関係を結ぶことが出来ています。

建物の自慢の一つである中庭を活かして、天候の良い日には、お茶を飲んだり、食事をしたりと、普通の家庭ではなかなか味わう事の出来ないような素敵な雰囲気を楽しんで頂いています。夏には、中庭で流しそうめんやスイカ割りを行うなど、1階、2階の入居者の交流の場にもなっています。

これからも、地域の方々、入居者のご家族に温かいご支援を頂きながら、入居者が安心して笑顔で暮らせる環境を作り、よりよいケアを行っていきけるよう、努力していきたいと思っています。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的に客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

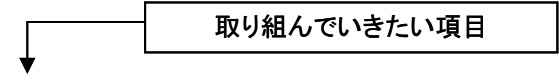
○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームパティオつくいけ
(ユニット名)	あおぞら
所在地 (県・市町村名)	横浜市旭区今宿西町358番地
記入者名 (管理者)	海野 節子
記入日	平成 21年 1月 10日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念			
	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム開所時に考えていた理念をそのまま掲げていますが、思いは常に「地域の皆様と共にある暮らし」と考えています。		
	○理念の共有と日々の取り組み		○	職員会議や申し送り時を利用して、理念の確認と徹底を図っていききたいと思います。
2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関、事務所には理念を掲示していますが、職員の入れ替わりもあり、サービスの提供時において十分反映できていない面もあると思います。		
3	○家族や地域への理念の浸透			
	事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	自治会に加入しており、行事や地域活動への参加、また行政からの委託事業により、地域と家族の方々にホームの趣旨と内容の説明、及びホームでの日常場面をビデオで紹介する等して、認知症に関する理解を深める機会を設けています。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい			
	管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の方々には、開所時よりとても好意的に接して頂き、手作り品や新鮮な野菜を届けて下さるなど様々な形でお世話になっております。		
5	○地域とのつきあい			
	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、会合や地区の行事にも積極的に参加しています。また、ホーム主催の行事には、多くの近隣の方々が参加して下さっています。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	近所の方による演奏会を近隣の方がとても楽しみにしており、ホームで開催する芋煮会に合わせて行って頂いています。毎年大勢の方が参加して下さり、芋煮会の際には近隣の方にもお手伝いをして頂き、演奏会と合わせて皆様に大変喜んで頂いています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価の必要性については、職員に伝えています。改善に向けて努力している項目もありますが、全体的に生かしきれていない部分もあると思います。	○	評価を謙虚に受け止め、今後の改善に努めていきたいと思えます。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員の方々に会議に参加して頂き、報告必要事項の説明を行っています。その際、委員からの助言もホームの運営に活かしています。また、近隣の散歩道の不具合を指摘すると、早々と修復して下さる等、ホーム側からの要望も実行して頂いています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村が行う講義には、出来る限り参加しています。また、生活保護担当者とも常に連絡を取り合い情報提供に努めています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	GH連絡会で行う研修に参加しました。実際、制度適用の必要性がある方には、区の担当者と協力して利用した方もいます。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人としてのマニュアルを設置しました。研修を受けた職員の資料を参考にして、常日頃、不審な事や言動についての情報収集に努めています。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書、契約書等を通じて説明を行い、同意を得ています。解約時にも詳しく手順を伝え、協力できる部分については納得して頂けるまで行うようにしております。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居契約時に内部、外部の苦情相談窓口の説明を行っており、事務所には専用の用紙を備えています。苦情があった場合には、速やかに対処するように努め、対応・経過を記録に残しています。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族の来訪時に入居者の近況や状態説明を口頭にて伝えていきます。状況に応じて小口金の報告、精算も行っています。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に窓口となる職員や公的機関を表示しています。ご家族の来訪時には確認するようにしていますが、意見や要望等が出された際には職員間で周知徹底するように努めています。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に三回、法人に対して自己評価表の中で運営者や上司に対して直接意見を記載できる項目を設けています。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員の必要人数が確保できるように努めていますが、体調不良等の緊急時には勤務変更や時間外で補充しあう等、協力を要請して調整に努めています。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には、異動はしない方針で施設の運営が行われています。やむを得ない事情での異動や離職に関しては、心理的にショックを与えないよう配慮しています。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み			

19	<p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>随時、法人より各レベルに応じて研修を受講できるように案内があります。また、資格取得支援制度を設けてます。認知症介護実践者研修を順次受講してもらっています。</p>	○	<p>法人としては、研修を勧めています。シフト制という事もあり、あまり受講出来ていないのが現状です。今後は、各自計画性を持って自己研鑽に努めて欲しいと思います。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>GH連絡会による交換研修制度を利用して学ぶ機会を持っています。また、近隣のグループホームとお互いの行事に参加し合うなど交流を重ねて友好関係を築いています。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>親睦会やボーリング大会等を実施しています。また、月二回実施する会議においても問題点を取り上げ改善に努めています。</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>実力能力主義を掲げ、昇給、賞与に反映させています。</p>		

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>最初の面談の際からご本人やご家族の思い、不安な点などを把握しながら、グループホームとしての全般的な説明を行い、信頼関係を築いていけるよう努めています。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>最初の面談の時から、自分が家族だったらとの思いで不安な点、要望等を傾聴し、説明を重ねていく事で安心して頂けるよう努めています。</p>		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>最初の入居相談においては、入居を前提とした対応ではなく、グループホームでの支援が適しているか、また他入居者との関係において共同生活が可能かどうか等、ご本人にとっての状況を考慮した上で決定しています。</p>		

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が不安なままで、入居される事のないよう他入居者へも事前に理解を求め、状況に応じてご家族の協力も要請する等のあらゆる場面で配慮しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の大先輩であるという事を頭に置いて、常に尊敬する姿勢を忘れないようにしたいと思っています。個々の得意分野や能力を活かして、日常生活のお手伝いをして頂けるよう、支援しています。	○	さらに個々の能力を伸ばせる支援の必要性を感じています。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の状態をご家族に報告し、常に相談や意見を求める事で、ご本人にとって最良のケアを提供できるようにと考えています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居後も、ご本人とご家族との関係が良好に保てる様に、訪問時、また外出時にも楽しい時間を過ごして頂ける様支援しています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族は勿論、友人との関係を継続出来る様、希望時には電話や手紙での連絡も支援しています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	その時々、状況の把握に努め、共同生活を営む上で個性を尊重しながら助け合いの気持ちを持って頂ける様に支援しています。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	同じ法人の有料老人ホームへ移動された方とは行事を通じて、触れ合う機会を持っています。他のグループホームに移った方も、わざわざ個人的に遊びに来られる等、今でもお付き合いが続いています。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	共同生活である為、一人一人の希望を全て受け入れる事は難しく、ホームの方針や都合に合わせてもらっている部分もありますが、出来る限り本人の意向に沿えるよう、心掛けています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前からのアセスメントで生活歴や趣味、生活環境等伺ってサービス提供に役立てています。入居後もご本人との会話の中から新たな発見があり、得意分野として活かしています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	午前中に、入居者全員のバイタルチェックを実施し、その際に気になる状況があった場合には看護師に報告し、指示を仰いでいます。特に変わりがなければ、散歩や入浴など通常通りのケアを実施しています。		

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人とご家族、職員の意見を参考に計画作成担当者が中心となって介護計画を作成しています。介護計画はご本人とご家族にも確認して頂いています。	○	意思伝達の訴えが困難な方に対しても、その方の意向を反映した介護計画を作成していきたいと思います。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のケアカンファレンスにより職員の意見を聴きながら、ほぼ三ヶ月に一度の見直しを実施しています。状況に応じて必要な場合には、現状に沿った見直しを行っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤、夜勤共に担当者が介護計画の実践し、その日の状態の変化や言動等を詳細に個別で記録しています。申し送りが必要な特記事項は、介護日誌に記録し、朝と夕方時に看護師に報告すると共に職員全員が把握するよう努めています。		

3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所に多機能性を有している訳ではないので、ご家族との密接な接触を持って頂ける様に支援しています。		
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ご本人の得意分野である将棋のボランティアの方を依頼したり、その他必要に応じて、歌や踊りのボランティアの方をお願いしています。今後ご希望があれば随時、意向に沿える様努めていきたいと思ひます。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	今まで特に他のサービスを利用したケースはありません。	○	今後、本人の希望や必要性に応じて検討したいと思ひます。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	ご家族と相談しながらホームで行っているため、今のところ地域包括支援センターとの協働は行っていないのが現状です。	○	希望や必要性が生じた時には積極的に支援してきます。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に一度医師の往診、月に二度看護師の巡回を受けています。医師、看護師の指示や、家族の意向により、受診を必要とする場合には、協力病院などで受診しています。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	当法人の理事長、併設のクリニックの医師共に内科医であり、週一度の診察以外にいつでも相談できる利点があります。状況に応じて、認知症に関する専門的な受診が必要な場合には、専門医への受診も行っています。		
	○看護職との協働			

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療の連携により、月二回の看護師の往診があります。日々の業務日誌による報告を行い、緊急時には24時間体制で連絡が取れるようになっており、常にご入居者、職員が気軽に相談できる関係です。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した入居者に関する連絡事項がある時には、病院側と連絡を取り合っています。入退院に備え、ホーム側も病院側も看護サマリーを用意し、情報交換を行っています。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアに対して、医師、看護師の連携により入居者の状態に応じて対応する準備はできています。書類、整備は完了済みです。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	入居者の重度化に対して「出来る事、出来ない事」の変化を見極め、状態に応じて医師や看護師と密に連絡を取り、介護、医療の両面からサポートしていこうと思っています。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人や家族の意見・希望をお聞きして、出来るだけ希望に沿った形での住み替えを実施出来るよう、関係者との情報交換も密に行ないながら支援しています。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底	一人ひとりの状態や個性を踏まえて、自尊心を傷つけること		

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	のないよう言動に気をつけています。法人としても「ちゃん」付けの呼称を禁止しています。個人情報の取り扱いについて、守秘義務の徹底を図り、書類破棄の際にはシュレッダーを活用しています。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	普段からコミュニケーションを取る事で傾聴、受容、共感を基本として対応する事を心掛けています。ご入居者の思いを把握して自己決定を促すようにしています。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはホームのスケジュールに沿った形で過ごされる事が多いですが、常に個々のペースを尊重して行動を束縛する事はなく、自由に過ごして頂いています。	○	自立度が高い方が多い為、より本人の意思を尊重し、その日にしたい事の把握や、全員が主人公でいられるような支援を心掛けたいと思います。

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	洋服や化粧品等、希望時には一緒に買い物に出掛けています。パーマや毛染めを希望される入居者は美容院を利用されますが、その他の入居者は2ヶ月に一度のペースで訪問理容を利用しています。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お手伝いに関して、意欲的な入居者の方が多い為、当番制にするなどして、お料理から片付けまで一緒に作業しています。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	なるべく家庭と同じ雰囲気でも過ごして頂くという趣旨で、出来る限り本人の望む事を支援していますが、身体的理由のある方や喫煙に関しては、健康上の理由から医師や看護師と十分相談しながら制限をしています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	失禁時には、自尊心や羞恥心への配慮は勿論、排泄に関する不安が解消されるよう、排泄表を参考にしながら個々の状態の間隔を見極めて、不快な思いをしないよう支援しています。		
	○入浴を楽しむことができる支援	基本は一日置きの入浴としていますが、季節や個々の状態に合わせて臨機応変に対応しています。特に暖房や時間帯		

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	に合わせ臨機応変に対応してまいります。特に曜日や時間を定めず、心地良い入浴をして頂けるよう心掛けています。ただ、入浴を拒否されたり、高齢で体への負担が大きい場合には回数を減らしたり、また失禁があった場合には入浴して頂く等の対応をしています。	○	ほとんどのご入居者が歩行不安定で入浴時も介助が必要であるため、リスクを考慮し、スタッフの多い日中の時間帯に入浴して頂いています。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中、運動を促すことで安眠できるよう支援しています。昼食後、状況に応じて、居室で短時間臥床して頂き、身体を休めて頂く事もあります。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お茶の心得のある方には抹茶を立てて頂いたり、生け花の先生をされていた方には花を生けて頂く等、各自の得意分野を大切に活躍の場を提供する事で感謝の気持ちを伝えています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	極力、一人一人自ら買い物ができるよう、希望時には職員が同行し、支払いも可能な方にはご本人にして頂くようにしています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は日常の中で日課としていますが、入居者の方々の脚力の低下や拒否により、少しずつ回数が減ってきている現実があります。脚力の低下している方も、少しずつでもホームの駐車場を歩いて頂き、脚力低下が進行しないようにしています。また、車椅子を使用して近くの公園まで出掛けて季節を感じ、少しでも気分転換になればと思っています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族と外出する事を支援していくのは当然ですが、ご家族がいない方や体調面に対応できない方も多いため、希望時には個別の対応も行っています。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が希望される時には、電話でご家族やご友人と話をさせて頂くようにしています。また、手紙を書くことを希望される入居者もいらっしゃるため、手紙のやり取りも支援しています。		
	○家族や馴染みの人の訪問支援	ご家族がいない方も、場合によっては他の利用者や家族と一緒に行かせて頂くようにしています。		

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族がいつでも気軽に訪問して頂くため、特に面会時間を定めていません。一緒に幸せな時間を過ごして頂きたいと思っています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事務所に身体拘束に関するマニュアルを置いています。常に身体拘束ゼロを目指し、職員に指導しています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物の構造上、鍵が掛かる自動ドアになっています。ご入居者の状況により危険を伴う場合も多いため、玄関は常時施錠されています。	○	帰宅願望のあるご入居者はなく、施錠されていることによる行動制限や圧迫感等の弊害はないように思いますが、今後も状況に応じて手動に切り替えたりする等、臨機応変に対応していきたいと思っています。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	多動な方の行動を制限する事無く、他の方とのトラブルを防ぐために、つねに全員の所在や様子を把握しながら対応しています。夜間時には、2時間ごとの巡回も行っています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	衛生管理マニュアルを基本としますが、ご入居者が色々な物を居室に持ち帰る事があるため、基本的に危険な物については手の届く範囲に置かず、職員が管理するようにしています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事務所に各種マニュアルを用意しています。その都度、ヒヤリハット報告書や事故報告書に記録を残し、再発防止のため職員同士の連携を図っています。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	看護師が作成した各種症状に応じたマニュアルを用意し、緊急時に備えています。救急対応の流れや連絡先なども事務所に掲示しています。	○	定期的に医師や看護師の指導を受けたり、職員全員が救急救命講習を受講するように勧めていきたいと思っています。
	○災害対策	防火管理者の指導により、年に二回以上防災訓練を実施しています。		

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	くいます。避難経路やその方法、緊急連絡網を事務所内に掲示しています。法人としての、防災マニュアルも作成しました。日頃から近所の方に協力して頂けるよう要請しており、運営推進会議でも確認を行うなどを行っています。実際の災害時の事を考えると不安なところもあります。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	リスクに対しては、常にご家族に説明を行い理解を求めています。職員間でも会議などで対策を検討をしています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックや状態の変化を観察し、特変が見られた際には、申し送りや記録に残す事で職員間で情報を共有しています。また、医師や看護師に報告し指示を仰ぎ、その都度対応しています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご入居者が服用している薬の説明書をファイルにまとめ、いつでも確認できるようにしています。状態変化が見られた際には、週一回行われる医師の往診の際に報告するようにしています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防の為に、日々飲水や適度な運動を促し、乳製品や食物繊維を多く含んでいる物を摂取して頂くように心がけています。毎日の排便チェックを行い、便秘の際には看護師に報告し、指示を仰ぎ対応しています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	声掛けにて促し、行って頂けるよう支援しています。ご自分で出来ない方に関しては職員が介助し、口腔内の清潔の保持に努めています。また、定期的に訪問歯科を利用し、必要に応じて治療を行うようにしています。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算された食材の宅配サービスを利用しています。摂取量については食事、水分共に観察、記録しています。個人の嗜好に応じて他の物を用意する事もあり、状態に応じて粥やキザミ対応としています。		
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	それぞれの感染症に関するマニュアルを用意しています。状況に応じて予防のプリントの閲覧の他、日頃からうがい、手洗いの励行、そして、冬場の乾燥時期には風邪予防のため、加湿対策にも留意しています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	キッチンや調理用具等の取扱いに関しては衛生管理マニュアルに沿って、常に清潔を保持するように努めています。食材に関しては常時、賞味期限に注意を払っていますが、さらに1週間に1度実施している冷蔵庫内の掃除の際にも必ずチェックを行うようにしています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に至るまでの私道の植え込みや、玄関前のプランターには四季折々の花を植えて親しみやすさを演出しています。クリニックとホームの看板や、植込みの照明については暗かった公道が明るくなり、犯罪防止にも役立つと近隣の方々に喜ばれています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常時、入居者が集うリビングでは快適性に配慮し、BGMに季節を感じられる、親しみやすい曲を流しており、一緒に口ずさめる程度の音量にしています。日差しはレースのカーテンで調整しています。運営推進会議で指摘、助言された災害時における食器棚と冷蔵庫の転倒防止のための突っ張り棒も設置しました。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自然とリビングのソファーに入居者が集い、談笑されています。個別に利用できる談話スペースもあり、こちらもさまざまな機会に利用されています。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居説明の際に、使い慣れたものを持参して頂くように家族にお願いしていますので、その人らしさが感じられる居室となっています。		
	○換気・空調の配慮			

84	<p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>トイレはもちろん、各空間の換気は常に行っています。エアコンによるマメな室温管理、冬季には特に加湿対策も行っています。</p>		
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>回廊式の廊下やトイレ等には手すりの設置、水周りの滑りやすい場所にはマットの使用、浴室の安全性と共に、すべてにおいてバリアフリーとなっており、安全で自立した生活が送れるように工夫されています。</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>入居者の各居室やトイレには分かりやすいように大きな文字で表示しています。目印に手作りのネームプレートを掛ける等して工夫もしています。</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>建物の構造上、ベランダには段差があり、危険であるため、使用していませんが、四季を通じて中庭を広く活用しています。気候の良い時期にはお茶や食事を、夏には流しそうめんを行う等して入居者に喜ばれています。日当たりの良い玄関前にもベンチを設置しており、日向ぼっこや散歩帰りの休息の場として活用しています。</p>		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当ホームでは、グループホームの目標である地域交流に力を入れています。近隣の方々、また入居者のご家族のご支援によって、地域に密着した形でのホームの運営を行わせて頂いております。日頃から、近隣の方々には温かいお言葉を掛けて頂いたり、家で飼われている犬を連れて遊びに来て頂いたり、地域の方が気軽に訪問して頂ける理想的なホームになってきました。毎年恒例の、近所の方による演奏会と合わせて行う芋煮会には、近所の方が声を掛け合って、大勢の方が参加して下さい、一緒に行事を盛り上げてくれています。近隣のグループホームとも、お互いに助け合い、お互いの行事に参加し合う等、親交を深めながら友好的な関係を結ぶことが出来ています。

建物の自慢の一つである中庭を活かして、天候の良い日には、お茶を飲んだり、食事をしたりと、普通の家庭ではなかなか味わう事の出来ないような素敵な雰囲気を楽しんで頂いています。夏には、中庭で流しそうめんやスイカ割りを行うなど、1階、2階の入居者の交流の場にもなっています。

これからも、地域の方々、入居者のご家族に温かいご支援を頂きながら、入居者が安心して笑顔で暮らせる環境を作り、よりよいケアを行っていきけるよう、努力していきたいと思っています。